



故きを温ねて、新しきを知る
〜帯広葵学園のあしあと④④〜

平成27年の帯広葵学園、主な行事紹介

学校法人帯広葵学園

理事長 上野敏郎

平成27(2015)年は、帯広葵学園にとって記念すべき年でした。昭和39(1964)年、9人の園児を迎えて葵幼稚園が誕生して50年を満了した年です。つまり、51年目のスタートが平成27年なのです。

その記念すべき年に帯広葵学園は、新しい制度の下でスタートを切る予定でした。それが、内閣府管轄の「認定こども園」への移行でした。

法人は、この準備を1年前から始めていました。実現に向けて帯広市、北海道と打ち合わせを重ねていたのです。しかし、結論は行政と法人の調整が進まず不発に終わったのです。

その1年後、ようやく結論出て平成28(2016)年度から移行してよろしいと認可が下りたのが平成27年だったのです。

この決定は、帯広葵学園の27年の節目とも重なります。本来なら、特別なことと考え、記念式典や祝賀会を開くこととなります。法人はその選択をしませんでした。このお祝いは、通常保育、通常日程の中で行うことにしたのでした。

よって、この年はたくさんさんの50周年事業が登場しました。5回目を迎えた「とかち童謡まつり」もその一つです。

このお祭りにはその前段があります。帯広葵学園では平成19(2007)年から毎年7月1日(日本童謡協会認定「童謡の日」、帯広動物園のミニステージで「動物童謡音楽祭」を開いてきました。このお祭りを内から外に向けたのがとかち童謡まつりです。つまり、帯広葵学園内のお祭りから学園外の参加者も得るお祭りへと変えたのでした。

これからも帯広葵学園は、この行事を大切に育てていきたいと考えています。

十勝毎日新聞

(平成27年7月8日 十勝毎日新聞)

園児熱唱 童謡まつり

帯広葵学園50周年事業

「童謡の日」(7月1日)にちなんだ「第5回とかち童謡まつり」(学校法人帯広葵学園主催)が4日、帯広市民文化ホールで開かれ、幼稚園児らが、かわいらしい歌声で来場者を魅了させた。同学園の創立50周年を記念する催しで、運営する帯広の森幼稚園(秋葉正昭園長)とつじが丘幼稚園(河合昇園長)の園児の他、音更緑陽台保育園の年長組が特別出演した。ゲストとして帯広森の里小学校と帯広三条高校の合唱部などが出演し、歌の魅力を伝えた。



園児たちは年代別に、普段練習している童謡や歌の合唱を披露。愛らしく元気いっぱい、の歌声をホールに響かせ、来場した父母ら観客の笑顔を誘った。ゲスト2校の合唱部は各種コンクール出場の常連校。三条高校合唱部は年長組と「赤い鳥小鳥」「赤い山青い山白い山」を歌い、大きな拍手を受けた。(長尾悦郎 通信員)

